2024 年 7 月 24 日 2025 年日本国際博覧会大阪パビリオン 西澤良記副代表理事及び日本維新の会 梅村聡参議院議員を迎え第 5 回講演会を開催

一般社団法人アカデミア発バイオ・ヘルスケアベンチャー協会（東京都文京区、理事長森下竜一）は、2024 年 7 月 24 日、大阪 LINK-J ライフサイエンスハブウエスト会議室にて公益社団法人 2025 年日本国際博覧会大阪パビリオン 西澤良記副代表理事及び日本維新の会参議院議員梅村聡先生と氏を講師に迎え、「いのちの輝きとヘルスケアの未来」と題して、第 5 回講演会を開催した。

講演：「大阪・関西万博～いのち輝く未来、大阪ヘルスケアパビリオンの魅力」

公益社団法人 2025 年日本国際博覧会大阪パビリオン 副代表理事

公立大学法人大阪 前理事長 西澤良記先生

西澤先生は、大阪ヘルスケアパビリオンの魅力を紹介。出展テーマの REBORN について、人は生まれ変わり、新たな一歩を踏み出す。REBORN の体験ルートでは現在（現代）の個人の PHR を事前に測定し、未来のヘルスケアや都市生活の体験を通して、生まれ変わった、より健やかな未来の自分の姿を見ることができる。

別講演：「バイオ・ヘルスケアを巡る国政での話題」

参議院議員 日本維新の会 梅村聡先生

梅村聡先生は森下先生とは研修医時代からのご縁。森下先生が推進していた治験の患者さんの担当をしていた。その後メタボ対策を提唱された教授の下で、糖尿病について研究。

メタボ対策は境界線上の人に対して、運動や食事療法で医療に移行する人を防ぎ、病気治療の対象者を減らし、医療費を削減する構想だが、実際には基準値以上の人が安易に医療に移行し、薬による治療開始をする人が増え、一方運動や食事で改善が期待できない人（やせ型だけど血糖値が高い人等）に対しては早く治療開始すべきところ、基準値以下ということで治療せずに見過ごされ、増悪後はかえって医療費がかさむことになり、いずれも医療費削減にはつながっていない。正しい情報が、医療現場の第 1 線にきちんと徹底されていない典型。

有事が近い。輸血用の O 型血液の備蓄をしてほしいとの要望が厚労省から出ている。人工血液の採用を推進し、PhⅡまで来ている。

全国病院に対して防衛省から予備自衛官（医官・看護官等）の呼びかけが出ている。有事の際に戦地で治療に当たれる専門の医療従事者が不足。防衛医科大学校に所属している麻酔医、救急医療の医師を合わせても 100 名程度。
医師は戦地に出向かず、戦地では看護師、衛生関係者が救急処置にあたり、一次対応した患者を専門病院に運ぶ。
有事の時に日本国内で製造して確保することができる医薬が不足する。麻酔薬などの原薬は、ほとんど輸入に頼っている。有事の際には原料の供給がストップになると、国内で麻酔薬も製造できなくなる。日本維新の会では、製薬会社が海外の輸入に頼らなくても、必要な医薬品を国内で調達できるようにするための個別保障制度を提唱していく。医薬品だけでなく、食料や経済安全保障は有事の課題だが、なぜか表立って大きな声で語られていない。

当協会は、活動の柱のひとつとして、バイオ・ヘルスケアベンチャー振興を推進する議連の結成を目指しており、今後とも講演会・懇談会等、国会議員との情報交換の機会を通して、バイオ・ヘルスケアベンチャー振興推進に向けて働きかけていく。

（文責：菅谷）